

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400096		
法人名	社会福祉法人 揺籃会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム清祥園		
所在地	深川市納内町北3番59号		
自己評価作成日	2024/3/11	評価結果市町村受理日	2024/5/7

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400096-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人昭和46年に設立、平成26年法人合併にて揺籃会となる。昭和47年特別養護老人ホーム清祥園開設。平成18年特養本体にて逆デイサービスを実地し認知症高齢者ケアを少人数で行なう事で出来なかった事が出来るという事に着目し平成24年4月1日に同敷地内に小規模多機能型とグループホーム1ユニットが開設され今年で12年目を迎える。当初に比べ入退居もあり、ADL低下見られ出来る事が少なくなってきた状態ではありますが、施設にいても自分達に役割がある。頼られている、出来るという思いを持って頂く為に軽作業(洗濯物たたみ、食器拭き、縫物等)や日常の動作(着替え、排泄、移動、入浴等)を見守り、声掛け、一部介助にて行っており、新型コロナウイルス感染予防の為、1日2回(午前1回、午後1回)1家族2名様と定めさせて頂き直接面会をしている。又病院受診は基本はご家族様対応をお願いしていますが、事情により対応が出来ない場合は福祉有償運送を利用し職員が付き添い対応する。受診の結果をご家族様に連絡し情報を共有させて頂いている。又、4月よりグループ通信を偶数月に発送し日常生活の写真を通信に入れ込み施設での状態や担当介護職員からのコメントにて生活状況を知って頂き、奇数月には担当職員から電話で直接状態等を報告したり、ご家族様から意見など伺いお客様にとってより良い生活が送れる様にご家族と協力していく所存です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠くの日々や春の田植え、秋の稲刈りや収穫、冬は一面の雪景色などを望む事ができる自然環境豊かなエリアに位置する、4月に開設13年目を迎える1ユニットの事業所である。運営法人は高齢・障がい・児童福祉事業を運営し、当事業所は特別養護老人ホーム、デイサービス、居宅介護支援事業所に隣接し、地域密着型ハピネスとして小規模多機能型居宅介護事業所との併設型である。町内会や地域との関係が良好で畑作業や防火訓練、運営推進会議に地域住民の協力が得られており、また、保育園児が来所し利用者と一緒に畑で種植えや収穫する機会がある。今年度は2つの例大祭の見学や神居古潭、音江、丸山公園へ季節を感じるドライブ外出を行っている。施設内ではテレビ体操、開設当初に作った体操、ごぼう体操、可動域を安定させる個別リハビリなどの多彩な運動を行い、レクリエーションもレク係の職員が楽しめる内容を提供している。月2回の部署会議(グループホーム単独)では、事例検討、身体拘束についての話し合いを定例化し、支援の質の向上や適正化を高めている。運営法人による各種委員会や研修、災害対策などの継続的バックアップや、新年度よりICT化や特定技能外国人実習生の受け入れ、家族への通信や情報連携など、新たな体制を整えサービス向上を目指している。利用者個々の願いに応えつつ、「地域社会の中での人と人の触れ合いを大切に」理念に則ったサービス提供に尽力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
		○	4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日昼ミーティング時に理念を読み上げ、理念に基づきお客様が自由に安心して生活が送れる様、日々観察、相談し環境を作れる様努めている。	法人理念に基づき、地域密着型サービスの意義等が盛り込まれた事業所独自の理念を標榜し、事業所内要所への掲示やミーティング時に唱和し、意識づけしている。理念に則る環境づくりに努め、実践に向けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2区町内会に属しているが感染状況にて行事等の付き合いは控えている。年1回の防火訓練に参加して頂いている。また畑土起こしや苗を分けて頂いたりと交流を図っている。	町内会回覧板が届いた際は利用者也閲覧している。町内の方々による畑おこしの協力や苗のお裾分けを得ている。防火訓練での町内関係者の参加協力や保育園児が来所し畑作業を一緒に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、日常の様子を伝え時には相談をしながら共に支えている。地域の方には特養との共同にて介護者教室を行い、認知症の事、介護の事、悩み事等話し合う機会を設けているが、現在はコロナ感染予防の為行えていないが緩和された際には行う予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染状況を見ながら運営推進会議を開催し対面での話し合いや書面での会議を開催し意見を頂いている。施設で行った内部研修の事や又警察の方に協力を得て防犯等の意見交換を令和6年度より開催する予定。	多様な構成員の参加を得て、併設小規模多機能事業所と合同で定期開催している。利用者状況を始め医療連携、研修、事故・ヒヤリハット等の運営報告や利用者の地域生活支援に向けた取り組みについて協議し、意見交換の内容を議事録に記載している。	会議議事録の全家族への送付について、運営法人と協議、検討する意向であるので、取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や電話、メールにて連絡し情報交換や相談を行い協力関係を築いていけるように取り組んでいる。	月2回市主催の地域ケア会議に出席し、市福祉事業の説明、事例検討や地域課題の話し合い、空き情報の伝達など市内事業所と共に協働関係を築いている。年3回、市の介護相談員が来所する事業に参加し利用者の権利擁護に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の部署会議にて身体拘束で不適切な言動がないか確認したり、日頃から職員間で不適切な事があれば伝え直したり、年2回特養と合同での内部研修会を行ったり、身体拘束検討委員会に参加し話し合いをしたりし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営法人の権利擁護委員会規定に身体拘束・虐待防止に係る指針を定め、部署合同で身体拘束検討委員会を定期開催し、且つ、毎月の部署会議にてこれらの事例を検討し適正化を高めている。今年度のこれらに係る内部研修は、カンフォータブル・ケア等を学習した。夜間帯のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の部署会議にて虐待がないか確認したり身体拘束委員会や関連事業所で虐待防止会議に参加し話し合いをしたり、特養と合同で内部研修会を行い虐待防止に努めている。又新聞等で虐待に関する記事が載れば回覧し全職員に周知を図り防止に努めている。		

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度については、現在対象者がいない為活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時、加算等の改定にはきちんと説明と文章を送付し、理解と納得をして頂いています。又身体状況によりグループホームでの生活が困難な状況があればご家族様に説明し特養の申し込みをし次へと繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを設置し意見等を反映させていますが、苦情件数が0件である。日頃から担当職員が中心にご家族様に面会時や電話連絡にて相談や意見を頂いている。	利用者からの意見により食席の変更を行った事例がある。家族からの苦情は無いが、洋服に関する事や好きなものを食べさせて欲しいなどの要望が寄せられ、その都度、調整し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼ミーティングや会議等にて意見、提案等行っている。時には相談される事もあり話し合いをしている。	年2回、管理者と介護リーダーが人事考課に係る職員面談を実施している。毎月2回の部署会議や毎日昼ミーティングを開催し、密に意見交換し情報連携している。各種委員会に職員が所属し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度で年2回面接し話し合いをしたり、会議等にて業務の見直しなど検討したりしている。個々からの相談を受け助言等をし職員間で話し合い現場での業務がスムーズに出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	小規模との合同研修を行い職員に担当をつけて書類作成や講師をして頂いたり、内部研修を行い勉強をしケアのスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、SOSネットワーク、ZOOM研修等行い情報交換、交流を図っている。又、他施設に研修に行き、自分の施設で足りない所、いい所を確認し次へのステップへと繋げられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様より聞き取りをし、又、居宅担当者より情報を頂き事前に介護職員に情報提供し把握しサービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に知り得た情報を基にご本人様、ご家族様から要望等を聞き安心し自立した生活が送れる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、何が出来るのかを見極め、プランに取り入れ1～2か月後に担当者会議をしてサービス提供を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人で行う事、団体で行う事等、出来る事を見出し共にし、生活しお互いに役に立てているという思いを持って時には相談しながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループ通信や電話連絡、通院結果、面会時等担当介護職員を中心に日常の事を伝え相談し共に支え合うなど協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やお手紙などで馴染みの方との関係を築いている。又、事前予約にて1日2回(午前、午後)と直接面会をしている。遠方より来られたり、仕事終わりに寄った(仕事により中々面会に来れない)際には窓越しにて携帯電話を使用し会話して頂いている。	現在、面会はデイルームで対応し、家族以外に知人の訪問がある利用者もいる。希望に応じた電話や手紙の支援や、携帯を所持し自由に通話する利用者もいる。家族と行きつけの理美容室に出かけたり、一時帰宅する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事、レク、軽作業、誕生会、余暇活動にて関わりを持ち、時には口論する事があるが職員が間に入り対応する事で落ち着かれる事もある。状況に応じ席替えしながら関係性を築き、より良い環境にて支え合えるような支援に努めている。		

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街で会った際など声を掛け日頃の様子や状態等話す事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の情報を基にご本人様、ご家族様から聞いた事を基に関係職員で話し合い取り組んでいる。	利用開始時に暮らし方の希望や介護計画作成時に本人からあらためて意向を聞き取っている。表出が難しい場合は、生活歴や家族からの意見を参考に望ましい本人像を検討している。	基本情報シートの定期更新や追記について、次年度より取り組みを強化する意向であるので実施に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当介護職員を中心としプランに沿っての評価や状態変化時、日常での会話等でその方の思いなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル、食事、排泄、入浴、水分、日常の活動を把握し普段と違う状態をあれば関係職員、小規模看護職員と相談し状況に応じて受診対応している。又、ご家族様にも協力を得て受診して頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランが切れる前に担当者会議をして検討し、ご家族様から事前に意見を頂き話し合い次へのプランへと取り入れている。又、日ごろからも担当職員より相談を受けその方に応じたケアに努めている。	モニタリングにて本人像、支援状況を評価し、サービス担当者会議にて、今後のニーズと課題、本人・家族等の意向を確認して新たな介護計画を策定している。次年度よりICT化の導入が決定し、介護計画に即した支援実施の連動性の更なる確実化へ期待できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿ったケアを行い、状態変化時等ミーティングや、部署会議等で相談しケース記録や連絡ノートに記載し情報を共有している。又、9月より記録がパソコンへの記載となり直ぐに目が通せるようになり気になる事があれば確認したり、検討したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症という事を認識出来る事、出来ない事がある為一つのサービスに捉われず介護基本を基にその方々に応じた柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染予防の為、地域との協働は現在ないが、ご家族様との連絡は密にし楽しい生活が送れる様に支援に心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にご家族様や職員が受診対応し医師と連携をとり健康維持に努めている。又、ご本人様、ご家族様の受診が難しい方は納内診療所にて訪問診療を受けている。	これまでの医療機関への受診が可能で、個々のかかりつけ医への通院や月2回往診を受けている利用者もいる。歯科は必要時に往診が得られる態勢である。通院は家族、又は事業所に対応し、受診前後の情報共有に努めている。	

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は小規模看護職員に相談し診て頂き、様子観察やご家族様に状況を伝え早期受診へ繋げたり、爪切りや処置などお願いし対応して頂いている。その為には日ごろの状態を伝えている事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は連携室と定期的に連絡を取り状態確認し、退院に向けてグループでの生活が継続出来るのか、又は生活が困難な場合は連携室、ご家族様と次への生活の場を相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループでの生活で出来る範囲を説明し、出来なくなってきた際は、特養入所や療養施設・病院への移動等相談し対応頂いている。	利用契約時に事業所で可能な体制を説明している。重度化で生活が困難になった場合は、家族との話し合いや希望を受け、同法人特別養護老人ホームや病院等への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した際は病院に連絡し救急車を要請したり、事故等での処置は日頃から看護職員がしているのを見ていたり聞いたりして対応している。マニュアルがある為見て確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い避難出来る様に努めている。町内会の方と災害協力を結んでいる為、毎年8月に防火訓練をしている。災害の訓練を検討しているが令和6年度に行う予定。	令和5年5月夜間想定火災非常召集訓練を地域関係者を交え実施し、8月は夜間想定火災避難訓練を併設小規模多機能事業所合同で地域協力者の参加を得て行った。災害備蓄品を確保し、BCPの策定に至っている。	当事業所で想定される自然災害における訓練を令和6年度中に実施する計画があるので実現に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声掛けをしているが、時には言い聞かせをしている事もあり、その際は職員間で伝えあっている。	年4回「認知症研修」を実施し、症状への対応や対人援助の基本原則等を学んでいる。トイレ誘導時の言葉かけについて見直しを図り対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う際はご本人様に確認した上で行ったり、行って頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせて日々を送って頂いていますが時には職員側の都合にて行動をして頂く事もあり、その際は説明をし了解を得る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る状態であればして頂き、介助が必要であれば確認したり行ったり、衣類が綻んだりしていれば修繕したり、ご家族様に連絡し購入して頂き身だしなみを整えている。		

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策をして一部調理をして頂いたり、食器拭き、洗濯もの畳みをする。状態に応じ食事形態を変更し少しでも食べて栄養が取れる様に相談し行っている。又、好きな食事等聞き取りしたり、普通食器で食べられない方がいて相談し特養より自助具を借りて少しでも自身で摂取出来るように心掛けている。	献立は併設小規模多機能事業所と合同で立案し、母体の管理栄養士の確認を得て提供している。旬の食材の取り入れや、誕生日は本人の食べたい物を聞き取り、主に寿司や赤飯、ケーキで祝っている。戸外でソーメンや焼肉、冬は鍋など、季節の行事食も交え食事への関心が持てるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間シート活用し食事量、水分量を把握している。食事が取れていない場合は原因を調べ食事形態を変更したり、受診したり、水分が足りない場合はゼリーを食事以外に提供したり、昼間は細かく声掛けしたり夜間は排泄の起きた際に飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂き、歯、義歯、歯茎等異常があれば受診又は往診対応している。夕食後には義歯洗浄している。特養と合同で歯科衛生士による勉強会に参加し部署会議にて伝えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に確認しトイレの声掛け、誘導しトイレでの排泄に心掛けているが失禁がある方にはパッド使用しながら対応している。	排泄チェックは1週間綴りの24時間シートを用い、状況を見極め個々に応じた排泄支援に努めている。便意失念の状態にある利用者に対しては、落着かないなどの表情やチェック表を確認し、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日か2日ない日は朝ヨーグルトを食べて頂いたり、個々に応じて毎日ヨーグルトを食べたり、ヤクルト飲用したり医師からの指示で下剤(水薬)を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴にてゆったりと入浴される。主に午後からの入浴であり、声をかけて入浴して頂いている。受診前日に入ったり、その日に入浴が出来なければ声掛けし翌日等別の日に入ってもらっている。機能維持の為に洗髪、洗身等出来る所はして頂いている。又、皮膚の状態を確認し早期対応に心掛けている。	土曜日以外の6日間に入浴支援を行い、利用者1人ひとりが週2回入浴している。浴室は広く檜風呂を設置し、個々の入浴ごとに湯を換えている。足の動きにより職員2名介助やメンタルの不調の場合も無理せずに翌日等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々により居室で休まれたり、リビングのソファに横になったりしている。又、夜間眠れない時は傾聴したり温かい飲み物を飲んで頂いたり、ソファで少し横になり、後で居室誘導し休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診にて内服薬変更になった際は、ケース記録や連絡ノートに記載し周知を図り、用法や用途などが記載されている紙を置いて見て確認してる。毎食時、名前、日付け、いつ服用するのかを確認し間違いの無い様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業をして頂いたり、好きなテレビ番組を見たり裁縫、脳トレ、塗り絵等行ったりして過ごしている。		

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祭り見物や紅葉ドライブ、敷地内の散策、畑収穫をしたり、感染対策をして頂き美容室や自宅に行ったりして頂いている。	深川聖徳太子例大祭、深川神社例大祭の2つの祭り見学や神居古潭、音江、丸山公園へのドライブ外出を行った。周辺の散策をしたり、敷地内の畑作業の植ええや収穫は保育園児と一緒にやっている。家族と一緒に外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もいますが殆どが施設管理となりご家族様と連絡を取りながら必要な物を購入したり受診料を支払いしたり毎月お小遣い預かり表をご家族様に発送し使用内容を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様などから連絡があれば繋げたり、電話をしたいという方には繋げたり、携帯電話を持っている方は自由に連絡をしている。又、手紙も届いて渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では季節の物を飾ったり、塗り絵や貼り絵をした物等作品を飾っている。	共用空間は明るく、食堂兼居間とデイルームが廊下を挟み独立した造りで、好みの場所で寛げる広さがある。廊下に利用者の作品の掲示や鉢植えが置かれている。トイレは2居室ごとに4か所設置している。エアコンや加湿器、空気清浄機、換気により温湿度や空調を管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で殆どの方が集まり会話やテレビを見たり体操、余暇活動をして過ごしている。デイルームのソファで横になり休んだりテレビを見たり、又、窓際に椅子が置いてあり外を眺めたり会話している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具・使い慣れた家具類を設置し自分の空間を作ってもらえる様にご本人様、ご家族様と相談し行っている。	介護用ベッド、洗面台、防災カーテン、クローゼットなどの備え付けがある。馴染みの家具や調度品類、大切な品々を持ち込み、ADLの状況を鑑みつつ、本人の意向に即した部屋となるよう環境をサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	了解の元、居室に名札を付けているが、付けられない方は飾り物で理解して頂いたり、居室内を自由に安全に動ける様に状態に応じて混乱しない程度に変更したりしている。		

目標達成計画

事業所名 認知症高齢者グループホーム清祥園

作成日：令和 6年 5月 3日

市町村受理日：令和 6年 5月 7日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	基本情報シートの更新が出来ていない。	年1回基本情報シート更新とプランの短期期間が切れる際に暮らしシートの作成し担当者会議をしていく。	2月に基本情報シートの書類を渡し、短期期間が切れるお客様の担当職員に暮らしシート渡し作成する。	1年
2	4	グループホーム活動報告4を運営推進会議、ご家族様代表の方しか知らない状態である。	身元引受人に運営推進会議資料や意見等の会議録を発送しグループホームの活動をより知って頂く。	運営推進会議開催時に渡す資料を代表以外のご家族様にも同時期に発送していく。	6月より
3	35	防火訓練はしているが災害時の訓練は行っていない。	災害時(地震等)の訓練をしていく。	施設長、防火管理者と日程調整と流れなど確認し訓練をする。	今年度中
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。